

論文名 : Occlusal evaluation using Modified Huddart and Bodenham scoring system following two-stage palatoplasty with Hotz plate: A comparison among 3 different surgical protocol

Hotz 床併用二段階口蓋形成術における

Modified Huddart and Bodenham スコアリングシステムを使用した咬合評価 :

3つの異なる外科的プロトコル間の比較検討

新潟大学大学院医歯学総合研究科

氏名 SALAZAR, ANDREA REI ESTACIO

---

目的 : 言語成績向上を期待して行った軟口蓋閉鎖の術式の変更と硬口蓋閉鎖時期の早期化が片側性唇顎口蓋裂の咬合に対する影響を評価する

デザイン : 後ろ向き研究

対象 : 3つのグループ (G1、G2、G3) に分類された二段階口蓋形成術で治療された 96名の片側性唇顎口蓋裂患者を対象とした

介入 : G1 : 1年6か月で Perko 法による軟口蓋形成を行い 5歳6か月で鋤骨弁による硬口蓋閉鎖術を行った群 (1983年から1995年)。G2 : 1年6か月で Furlow 法による軟口蓋形成を行い 5歳6か月で鋤骨弁による硬口蓋閉鎖術を行った群 (1996年から2010年)。G3 : 1年6か月で Furlow 法による軟口蓋形成を行い 4歳で鋤骨弁による硬口蓋閉鎖術を行った群 (2010年から2017年)

方法 : 2名の矯正科医が Modified Huddart and Bodenham スコアリングシステムによる咬合評価を実施した

結果 : 評価者内 (ICC、0.962) と評価者間 (ICC、0.950) の信頼性は非常に良好な一致を示した。メジャーセグメントとマイナーセグメントに存在する交叉咬合の頻度は、プロトコルを変更するたびに徐々に減少した。平均スコアは、3つのプロトコル間で有意差を示さなかった ( $P > 0.05$ )。いずれのプロトコルにおいても、正常咬合の割合が優位であった (G1 : 82.6%、G2 : 89.8%、G3 : 91.7%)

結論 : 3つのプロトコル間で歯列弓関係に有意差はなく、良好な咬合関係が維持されていた。以上のことから、これまでに報告されている当科の言語成績向上の実績を勘案すると、当科で行ったプロトコル変更は、二段階口蓋形成法の総合的な治療成績のさらなる向上に寄与していることが示唆された